

【部会・分科会活動報告】 2007年9,10月度

食 品 安 全 研 究 会	食品安全調査研究部会	e-mail 情報の発信：なし 部会会合等：なし
	食品アレルギー研究部会	10/3 第2回食物アレルギーシンポジウム「サプライチェーンにおける加工食品の課題を考える」～ 交差汚染と食物アレルギー表示～を順天堂大学にて開催。52名参加（内、厚労省3名：牛尾参事官、西島規格基準課長補佐、係長）
	食品微生物研究部会	10月18日第4回全体集会開催 （カビ（毒）ハンドブック出版に関して） 9月26日、10月13日、国立衛研究：小西先生訪問 （徳田氏、後藤氏、上記ご相談）
	食品リスク研究部会	1) 第5回部会運営会議開催（10/23, 13:30-16:45）ILSI Japan 事務局会議室： 議題1：サテライトシンポジウム関連 会場のレイアウト説明、開催当日の運営方法の確認、各担当者の役割確認。 議題2：「食品の安全性評価のポイント」関連 冊子の売り上げ部数：10/23 現在で180、「健康食品の安全性確保に関する検討会」および「日本健康栄養食品協会の専門部会」の動き。 < 次回運営会議：12/10, 13:30-16:30 > 2) サテライトシンポジウムの講演者と同時通訳者との打ち合わせの立ち会い（11/1, 16:30-18:30）シェラトン都ホテル東京 3) サテライトシンポジウム開催（11/2, 9:30-17:30）国連大学ウ・タント国際会議場 運営係として食品リスク研究部会より15名が参加。会場8時集合。
	バイオテクノロジー研究部会	9/20・10/23 国際ワークショップ（11/28）開催に向けてタスクフォース会合開催 9/21 お茶大LWWC推進委員会に参加 来年からの対応を決めた（不参加で）。 9/24-28 幕張で第7回CODEX TFFBTに参加 議題はSTEP5/8で総会に。 10/3 お茶大LWWC2007年度後期講座開始（毎週水曜日）
	香料研究部会	
栄 養 健 康 研 究 会	食品安全研究会全体	1. サテライトシンポジウム開催対応： 講演プログラムPPT作成、演者への講演に関する連絡、ゼネラル・アナウンス内容作成、全清飲への参加要請、演者紹介文翻訳、最終スケジュール表作成、食品リスク研究部会での最終確認10/24、西島先生訪問打合せ10/25、 2. ILSI President; Mr. J. Ruff プレゼン資料作成
	栄養研究部会	組織委員会の意向を受け、第5回「栄養とエイジング」国際会議のプログラムを完成。8月8日に国連大学国際会議場の下見を実施した後、当日に向けて最終調整を実施。開催当日の運営マニュアルを作成、ポスターセッションの仕方等の資料を作成して開催に向けて準備を進行させた。
	肥満タスクフォース	「日本人の肥満の現状」の出版に向けて、最終校正中。

	炭水化物研究部会	GR プロジェクトと、二つの分科会（果糖分科会、ダイエット分科会）を中心に、活動を進める。炭水化物の摂取と健康（肥満、生活習慣病）との関係を、ILSI Japan として明確にすることを目標としている。
	GR プロジェクト	プロトタイプとして確立した GR 測定方法に細部の修正を加える作業を継続して行った。また、グリセミック・インデックスが報告されている代表的な食品、食事を用いて GR 値の測定を行った。GR 測定の際に基準とする食品の選択とその測定の検討を、昭和女子大学と共同で開始した。
	果糖分科会	9 月 18 日に果糖分科会実施。Nutrition Reviews の果糖総説の内容検討、果糖批判の中心的な Am. J. Clin. Nutr の文献の検討を実施している。また昨年から実施している Pub. Med. による文献検索結果の一覧の作成を開始した。
	ダイエット分科会	9 および 10 月は分科会開催せず。7 月分科会の宿題事項である血糖値と満腹感・食欲の関係に関する文献調査を担当者が実施中。
	茶類研究部会	11 月 3 日世界お茶学術会議（ICOS）での ILSI Japan 主催のワークショップの諸準備のために、講演者と連絡を取り万全を期している。ILSI Japan と ICOS の共催の形をとる。
	日本の食生活と肥満研究部会	10 月 12 日に研究部会を開催して、分科会長相互間で会合内容を共有化した。各分科会の進捗状況の確認と今後の活動目標を確認した。
	発酵製品の多様性分科会	日本語を含めてオンラインにて関連する報告書の検索を検討する予定。
	脂質の種類分科会	関連する報告書などをさらに探索し、脂質と肥満との関連を独自に検討する予定。
	食事の量分科会	FAO の食糧供給調査と WHO の健康調査に関する資料を検討。また、インターマップ・スタディのデータにつき、確認する予定。
	食品機能性研究会	10 月 9 日拡大世話人会開催。
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition)	<p>テイクテン (TAKE10!)</p> <p>9/3 ふそうテイクテン (講師: 木村美佳、愛知・扶桑町)</p> <p>9/6,10,11,12,20,21 すみだテイクテン フォローアップ教室 (墨田区)</p> <p>9/14 すみだテイクテン栄養講演会 (講師: 熊谷修先生、墨田区)</p> <p>9/19 すみだテイクテン第 3 期講習会 (墨田区業平)</p> <p>10/1,9,10,11,18,19 すみだテイクテン フォローアップ教室 (墨田区)</p> <p>10/3,5,12,17,22,24,26,29 すみだテイクテン第 3 期講習会 (墨田区業平、緑、文花)</p> <p>10/4 明治青年大学講演 (講師: 木村美佳、墨田区)</p> <p>10/5,6 津和野シルバー人材センター介護予防リーダー養成講座 (講師: 木村美佳、島根・津和野町)</p> <p>10/18,19 津和野シルバー人材センター介護予防リーダー講習会 (講師: 木村美佳、島根・津和野町)</p> <p>10/10,24 テイクテン料理冊子用撮影 (渋谷区池尻)</p> <p>10/30 すみだテイクテン栄養講演会 (講師: 熊谷修先生、墨田区)</p> <p>リズムテン (LiSM10!)</p> <p>9/11~18 介入プログラム カウンセリング (N 社)</p>
	Project SWAN	9/19-21: コミュニーションの人材トレーニング (ガアン村、ベトナム)

(Safe Water and Nutrition)	10/29 : レビューミーティング (フイクン村、ベトナム) 10/30 : フォーカスグループディスカッション (ガアン村、ベトナム)
Project IDEA (Iron Deficiency Elimination Action)	カンボジア魚醤保存試験実施 (12 ヶ月間、2007 年 10 月終了) 10/23~ 鉄強化魚醤に関するスクリーニング調査 (Siem Reap, Cambodia)
国際協力委員会	特記事項なし。
情報委員会	委員会開催 2 回 (9, 10 月)。 「イルシー」誌 91 号 “ 第 5 回 「栄養とエイジング」 国際会議 & サテライト・シンポジウム 要旨集 ” 発刊。 日常業務としてのホームページ更新、ホームページ英文版完成。 「栄養学レビュー」編集委員会開催、現在の編集委員での編集委員会は最終会 ; 15 年間ごくろうさまでした。 ILSI President; Mr. John Ruff との会議で情報委員会の活動を報告。
編集部会	「イルシー」誌 91 号 “ 第 5 回 「栄養とエイジング」 国際会議 & サテライト・シンポジウム 要旨集 ” 発刊。「最新栄養学」9 版日本語翻訳版および「栄養学レビュー」2007summer 号作成進行中。ILSI Europe モノグラフシリーズ「食物繊維」翻訳版作成進行中。

【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会

【事務局からのお知らせ】

運営委員会	特になし。
執行委員会	平成 19 年度第 5 回・6 回執行委員会が 9 月 4 日、10 月 1 日にそれぞれ開催された。審議事項は下記の通りである。 第 5 回 1 . 寄附講座「機能性食品ゲノミクス」研究報告会 「機能性食品ゲノミクス」研究報告会が 9 月 6 日に都道府県会館で開催される予定で、ここまでの結果を 9 社に発表してもらうことと、本講座は来年 11 月に終了するが、第 2 期を計画したいがそのためには、参加企業の予算、大学側の準備を考慮して年内には継続の意志を固めたいということが報告された。 2 . 「栄養学レビュー」誌 (Nutrition Reviews 日本語版) の継続 ILSI Japan としては、前回の執行委員会でこの出版の継続を決定したことを受け、建帛社との話し合いを継続しつつ Blackwell 社からの契約条件提示を待っている状況であることが報告された。 3 . 次期役員候補選考委員 次期役員候補の選考委員会の委員として、下記の 6 名が各部会から選ばれた旨、報告があった。 食品安全研究会 : 徳田 一、岩田 修二 栄養健康研究会 : 山口 隆司、米久保 明得 情報委員会 : 末木 一夫

	<p>国際協力委員会：石井 胖行</p> <p>その上で、この委員会に何をしてもらうのかを執行委員会で論議して欲しいとの要望があり、選考方法、Industry と Public の比率等を含めてこの選考委員会で考えてもらうことになった。</p> <p>4．第5回「栄養とエイジング」国際会議特別会費 9月1日現在この国際会議の7万円の特別会費を送金いただいていない会員に9月中旬を期限として支払いの目処を連絡してもらう依頼の手紙を8月31日付で発送したことが報告された。</p> <p>5．ILSI 本部からの質問事項 ILSI 本部から Questionnaire from the ILSI Board of Trustees Global Tripartite Network Committee の Subject で10月15日 を期限とした質問状が来ていることが報告され、この件に関しては事務局が Draft を作成し、執行委員会の Review を受けることになった。</p> <p>第6回</p> <p>1．東大寄附講座・北里大学 9月6日に「機能性ゲノミクス」研究報告会が開催され、寄附講座の会員以外の ILSI Japan の会員出席者28名を含む約100名の参加があったことと、10月9日の世話役会の会議で、第二期の検討をするが、あわせて北里大との関わりをどう進めていくか検討する予定であることが報告された。</p> <p>2．役員選考委員会 10月2日に第1回の次期役員候補選考委員会を予定しており、11月中には選考方法の考え方をまとめ、12月には実際に選考等を行い、来年の総会で承認をとる予定であり、この委員会は決め方を決める会であり、人選をする場ではないことが確認された。</p> <p>3．第5回「栄養とエイジング」国際会議特別会費 8月31日付で再度のお願いの手紙を送付した結果、未回答の会員に対しても手分けをして声をかけることになった。</p> <p>4．「栄養学レビュー」(Nutrition Reviews 日本語版) Blackwell 社から Royalty として、出版毎に560米ドル、契約は Blackwell 社と建帛社との直接契約、同契約に ILSI ないしは、ILSI Japan が関わって欲しいとの条件提示があったが、建帛社としては、Nutrition Reviews のクオリティーが従来通りなのか懸案であり、2008年の Nutrition Reviews が出た時点で最終的な決断をしたいとの意思表示があったことが報告された。</p>
理事会	<p>平成19年度第3回理事会が9月6日(木)に開催された。</p> <p>事項：</p> <p>1．寄附講座「機能性食品ゲノミクス」研究報告 9月6日に東京大学・ILSI Japan 寄附講座「機能性食品ゲノミクス」研究報告会が開催され、9社の研究報告と阿部教授の研究総括と第2期へ向けた継続の提案があり、ILSI Japan としては、この講座を第2期として継続することと、食品機能性研究会の中での冠講座の位置づけと北里大学との関わりを含めて、新たな構想を年内に練っておく必要があることが報告された。</p> <p>2．「栄養学レビュー」(Nutrition Reviews 日本語版) ILSI 本部で出版していた Nutrition Reviews (英語版)の出版権を Blackwell 社に売ったので、日本語版の出版を継続するためには、</p>

	<p>新たに Blackwell 社と契約を締結する必要があり、ILSI Japan としては継続するためのあらゆる可能性を探りつつ、Blackwell 社からの Royalty を含めた契約条件の返事を待っている状態である。契約が 2008 年版からになるので、短期間ではあるが休刊の可能性もあることが報告された。</p> <p>現在は建帛社と ILSI Japan が赤字を背負っているが、販売のための Marketing の努力が必要であることが確認された。</p> <p>3．次期役員候補選考委員</p> <p>来年の総会で任期が終了する当機構の役員の選出のために次期の役員をどのように選考するか（現在の理事の官・学 6 名、産 6 名のバランスも含めて）議論してもらい組織として次期役員候補選考委員会を設定し、委員として各研究会から 6 名が任命されたことが報告された。ただし、この委員会は役員を選出する機関ではないことが強調された。</p> <p>4．オフフレーバー分科会の解散</p> <p>オフフレーバー分科会は 2004 年に研究の成果である「食品に関わるカビ臭（TCA）その原因と対策」を出版し、その出版以降は大きな動きがなく、目的を達成したので会員よりこの分科会を解散したいという要望があり、執行委員会の承認を得たことが報告され、議長が意見を求めたが特に異議はなかった。</p> <p>5．日本ファイルメニッヒ（株）の入会</p> <p>日本ファイルメニッヒ（株）が入会することになった事が報告された。</p> <p>6．10 月 30 日に ILSI 本部の新会長 Mr. J. Ruff の施政方針を聞き、ILSI Japan がこれまで何をしてきたか、今後何をするかを発表する機会を設定したので、理事の参加を要望した。</p>
事務局	特になし。